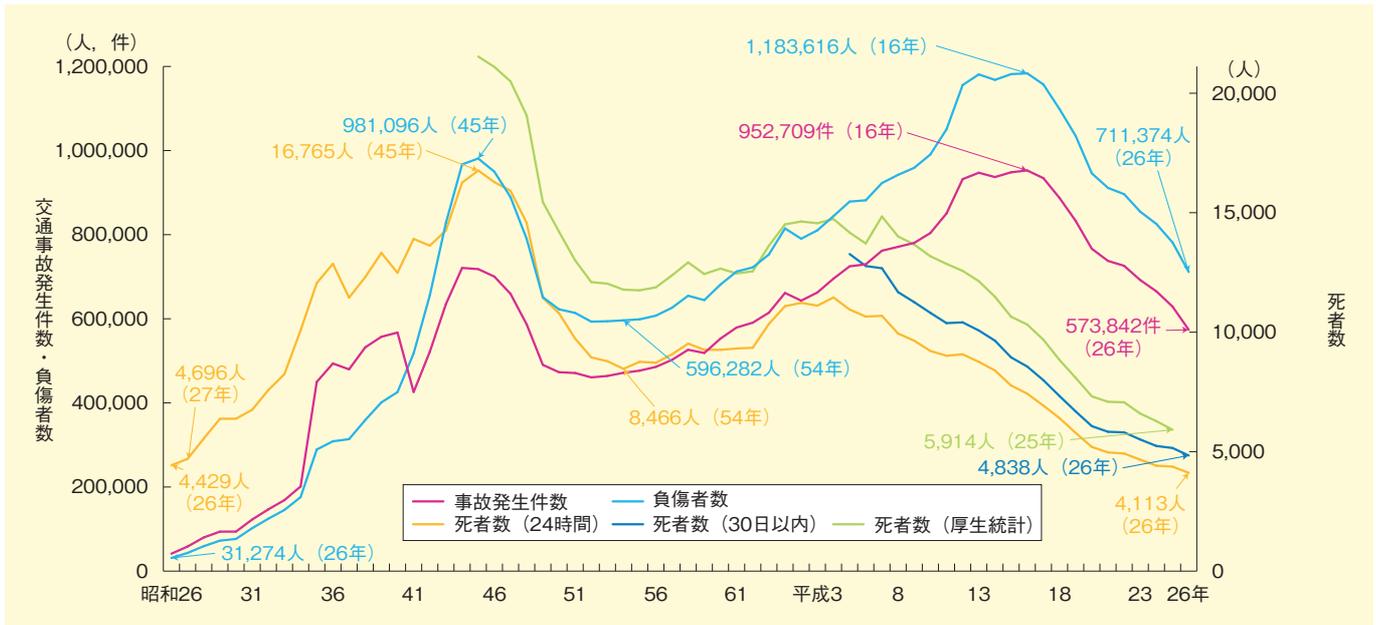


## 第1部 道路交通

### 第1章 道路交通事故の動向

#### 1 道路交通事故の長期的推移

交通事故死者数は、14年連続で減少。



- 注 1 警察庁資料による。  
 2 昭和41年以降の件数には、物損事故を含まない。また、昭和46年までは、沖縄県を含まない。  
 3 「死者数 (24時間)」とは、交通事故によって、発生から24時間以内に死亡したものをいう。  
 4 「死者数 (30日以内)」とは、交通事故によって、発生から30日以内 (交通事故発生日を初日とする。) に死亡したものをいう。  
 5 「死者数 (厚生統計)」は、警察庁が厚生労働省統計資料「人口動態統計」に基づき作成したものであり、当該年に死亡した者のうち原死因が交通事故によるもの (事故発生後1年を超えて死亡した者及び後遺症により死亡した者を除く。) をいう。なお、平成6年までは、自動車事故とされた者を、平成7年以降は、陸上の交通事故とされた者から道路上の交通事故ではないと判断される者を除いた数を計上している。

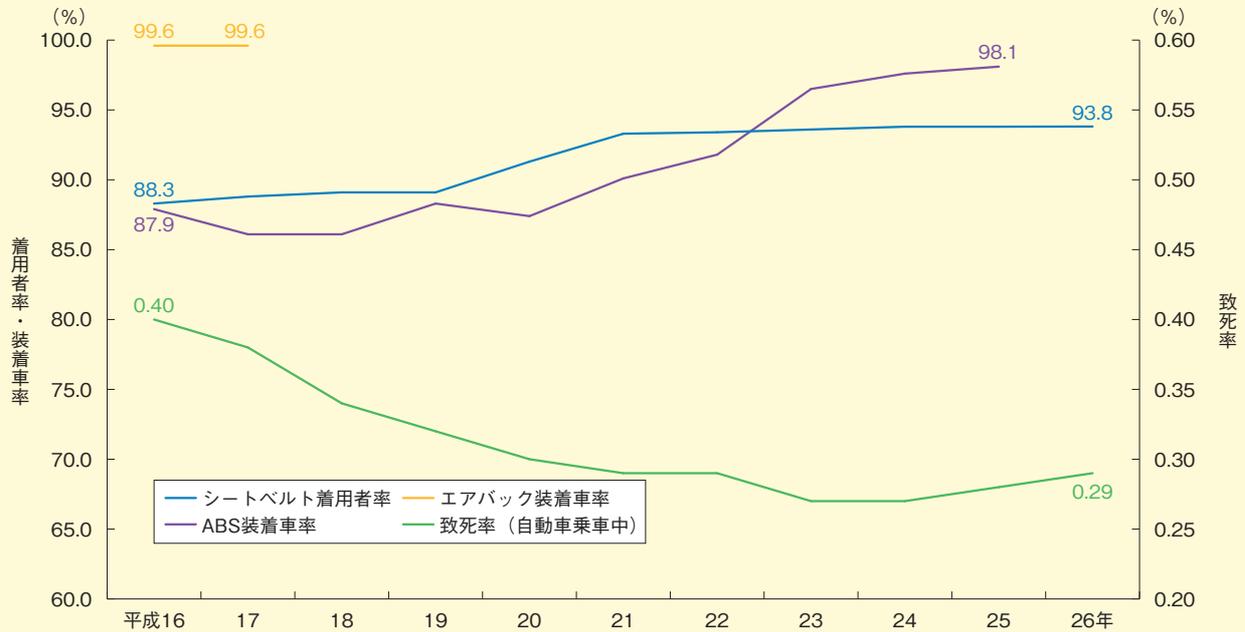
#### 【交通事故死者数 (24時間死者数), 交通事故発生件数, 負傷者数の推移】

- 昭和45年に交通事故死者数は、史上最悪の1万6,765人を記録  
 ↓  
 交通安全対策基本法が45年に制定され、同法に基づく交通安全基本計画を46年以降5年ごとに策定。
- 昭和54年には交通事故死者数は、8,466人まで減少。その後増勢に転じるが、平成4年を境に再び減少に転じる。  
 ↓
- 平成16年に交通事故発生件数は、95万2,709件、負傷者数は118万3,616人とそれぞれ史上最悪を記録  
 ↓
- 平成26年に交通事故死者数は、4,113人となり、14年連続の減少。  
 交通事故発生件数、負傷者数は10年連続の減少。



要因②：シートベルト着用者率等の頭打ち

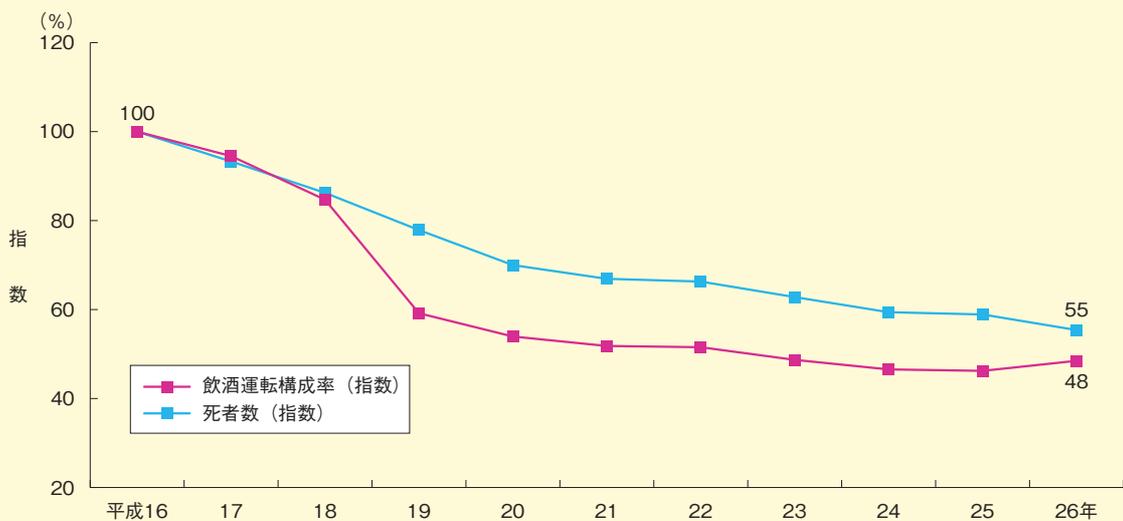
シートベルト着用者率等の推移



- 注 1 警察庁資料による。  
 2 シートベルト着用者率 = シートベルト着用死傷者数 (自動車乗車中) ÷ 死傷者数 (自動車乗車中) × 100  
 3 致死率 (自動車乗車中) = 死者数 (自動車乗車中) ÷ 死傷者数 (自動車乗車中) × 100  
 4 エアバッグ、ABS装着率の数値は (一社) 日本自動車工業会資料による。(エアバッグは18年分から数値の公表を中止。)

要因③：飲酒運転による交通事故の下げ止まり

飲酒運転による交通事故の構成率及び死者数の推移



- 注 1 警察庁資料による。  
 2 飲酒運転構成率 = 飲酒運転による全人身事故件数 (原付以上・1当) ÷ 全人身事故件数 (原付以上・1当) × 100  
 3 飲酒運転構成率は、検知不能の場合を除く。  
 4 指数は、平成16年を100とした場合の値である。

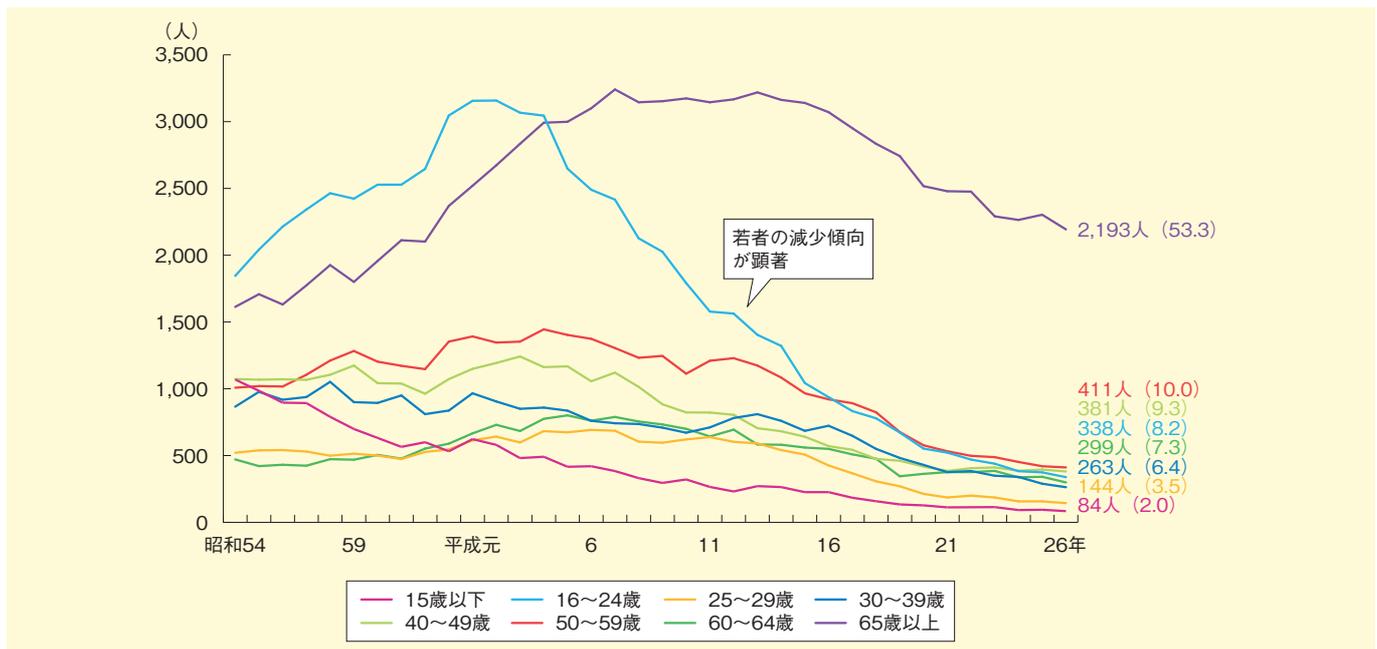
●年齢層別交通事故死者数及び負傷者数

① 死者数は、65歳以上の高齢者（2,193人）が最も多く、次いで50～59歳（411人）、40～49歳（381人）の順に多い。

高齢者の死者数は前年に比べ減少（前年比-110人、-4.8%）したものの、死者数のうち高齢者の死者数が占める割合は53.3%と過去最高となった。

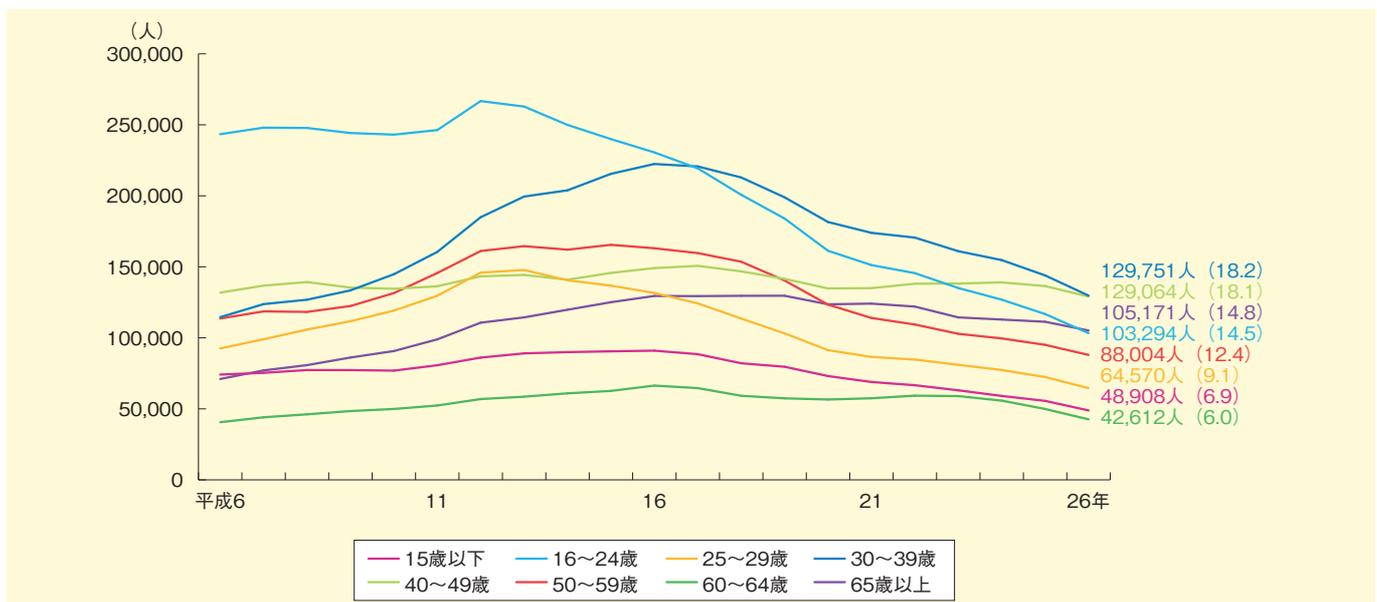
② 負傷者数は、30～39歳（12万9,751人）と40～49歳（12万9,064人）の年齢層が多く、両者で全体の36.3%を占めている。前年と比べると、全ての年齢層で減少し、その中でも30～39歳（1万4,207人減）と16～24歳（1万3,449人減）の年齢層が特に減少した。

年齢層別交通事故死者数の推移



注 1 警察庁資料による。  
2 ( ) 内は、年齢層別死者数の構成率 (%) である。

年齢層別交通事故負傷者数の推移

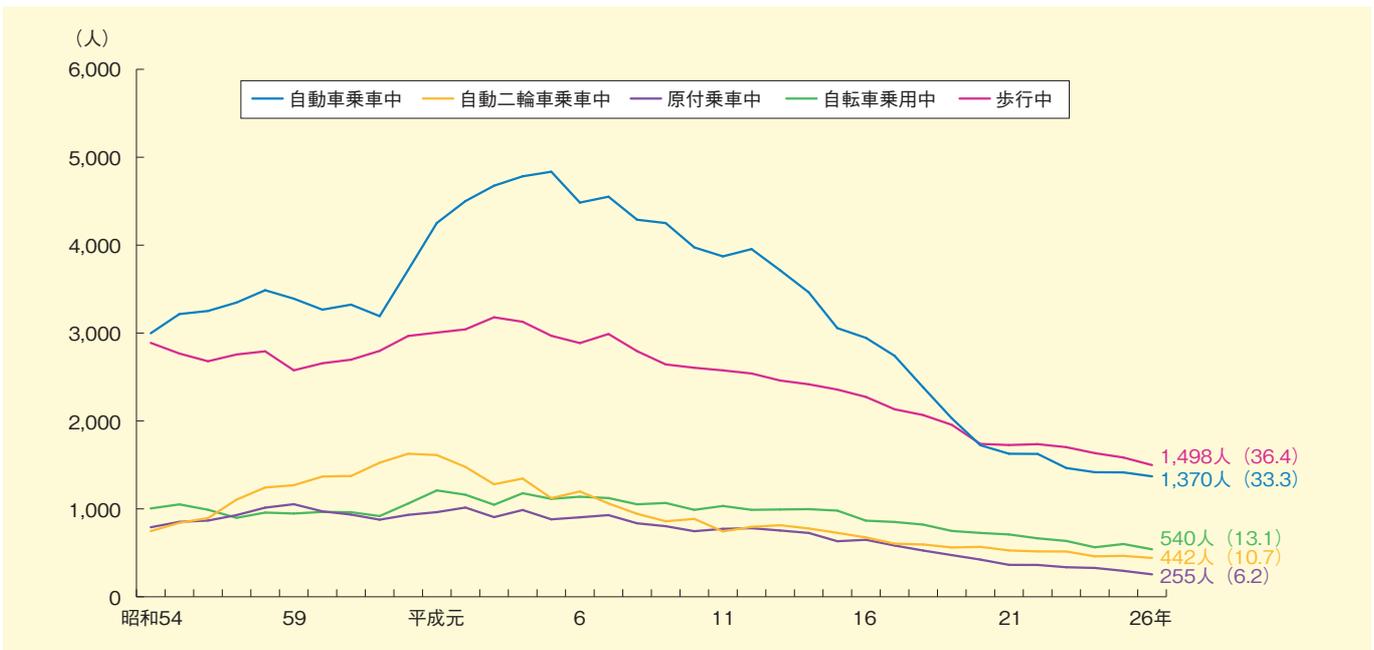


注 1 警察庁資料による。  
2 ( ) 内は、年齢層別死者数の構成率 (%) である。

●状態別交通事故死者数及び負傷者数

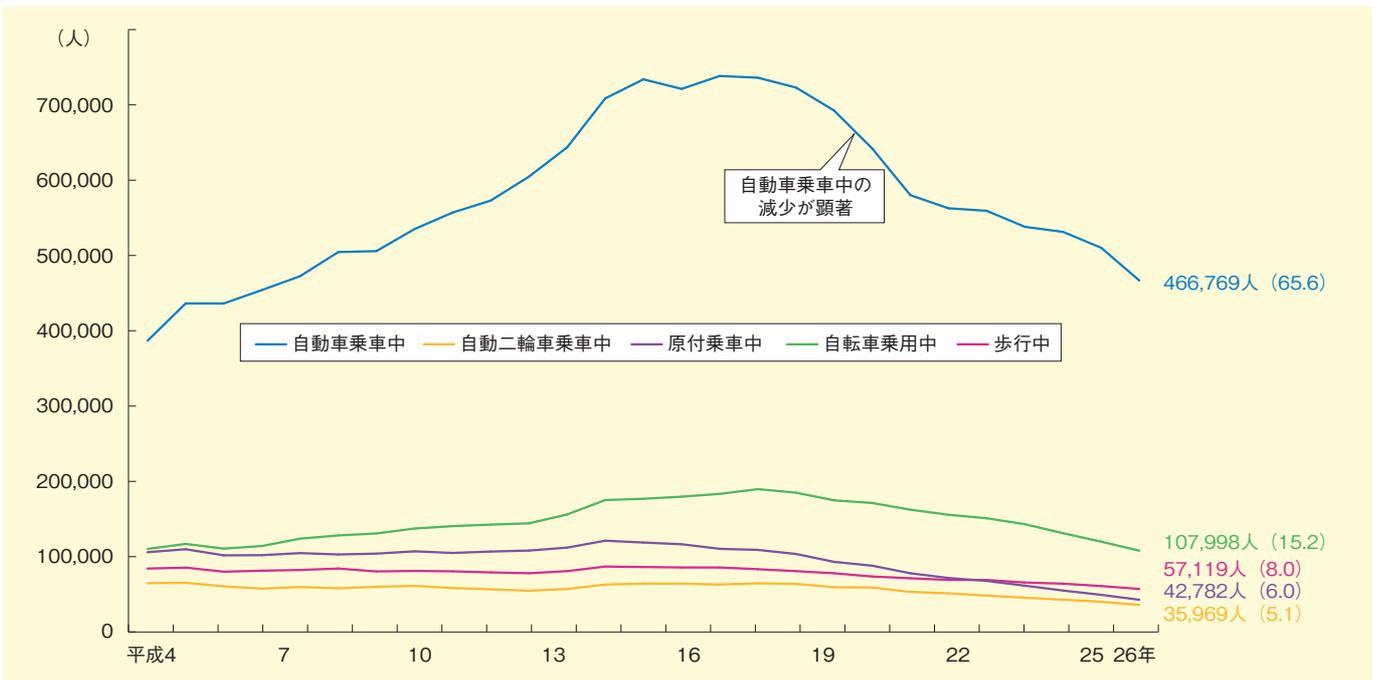
- ① 死者数は、歩行中（1,498人）が最も多く、次いで自動車乗車中（1,370人）となっており、両者で全体の69.7%を占めている。
- ② 負傷者数は、自動車乗車中が46万6,769人と最も多く、全負傷者数の65.6%を占めており、次いで自転車乗用中が10万7,998人（15.2%）となっている。

状態別交通事故死者数の推移



注 1 警察庁資料による。ただし、「その他」は省略している。  
 2 ( ) 内は、状態別死者数の構成率 (%) である。

状態別交通事故負傷者数の推移



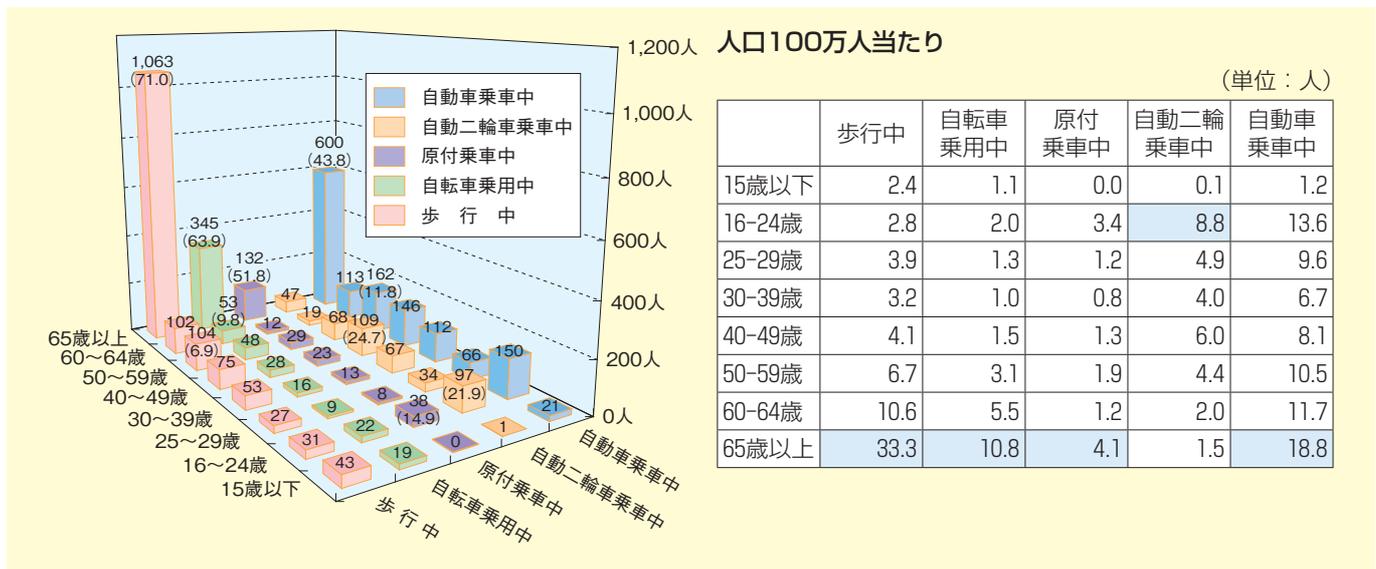
注 1 警察庁資料による。ただし、「その他」は省略している。  
 2 ( ) 内は、状態別負傷者数の構成率 (%) である。

●状態別・年齢層別交通事故死者数

平成26年中の状態別の交通事故死者数を年齢層別にみると、次のような特徴がみられる。

- ① 歩行中（71.0%）、自転車乗用中（63.9%）、原動機付自転車乗車中（51.8%）及び自動車乗車中（43.8%）の4つの状態別で、65歳以上の高齢者が最も多くを占めており、中でも歩行中及び自転車乗用中については、極めて高い割合となっている。なお、人口100万人当たりでも、4つの状態別で65歳以上の高齢者が最も多い。
- ② 自動二輪車乗車中については、40～49歳の年齢層が全体の24.7%と最も多くを占めているが、人口100万人当たりでは16～24歳の年齢層が最も多い。

平成26年中の状態別・年齢層別交通事故死者数

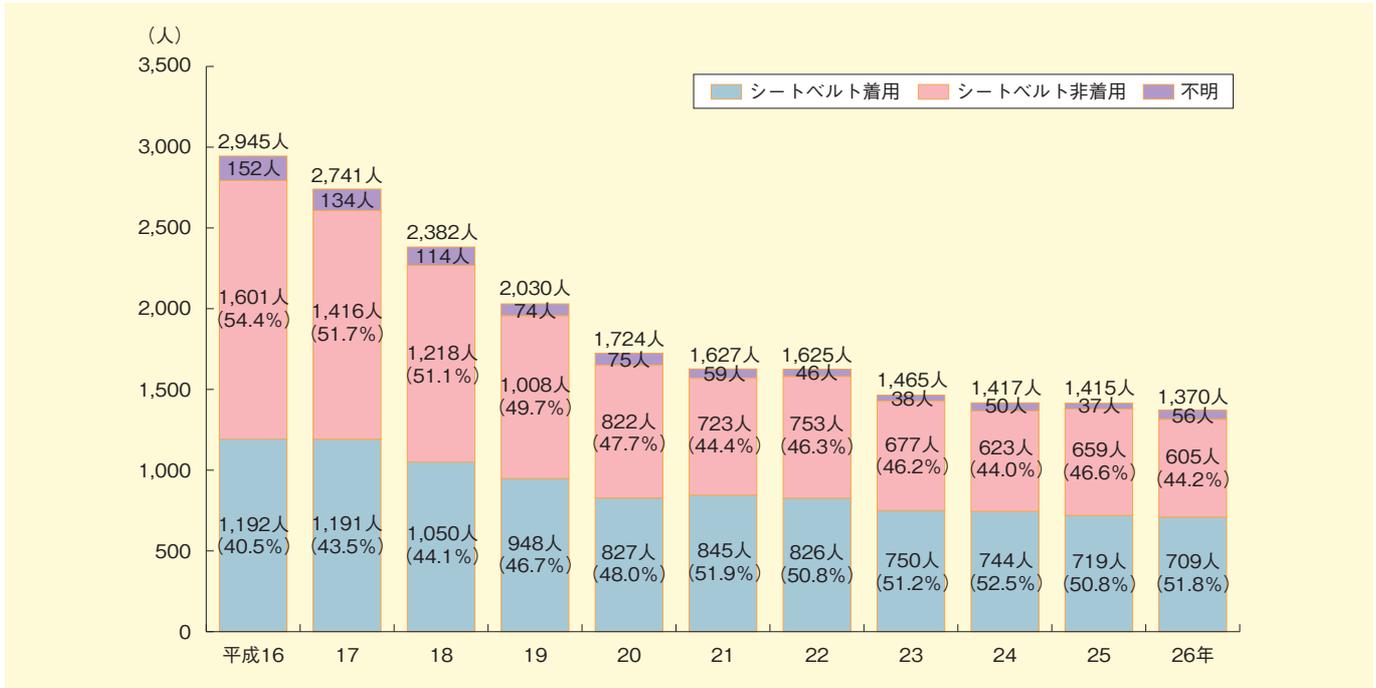


注 警察庁資料により作成。ただし、「その他」は省略している。

●シートベルト着用の有無別死者数

- ① 平成26年中の自動車乗車中の交通事故死者数をシートベルト着用の有無別にみると、非着用は605人で、前年に比べて54人（8.2%）減少した。
- ② 非着用者の致死率（死傷者数に占める死者数の割合）は、着用者の致死率の14.3倍と高くなっている。

シートベルト着用の有無別自動車乗車中死者数の推移

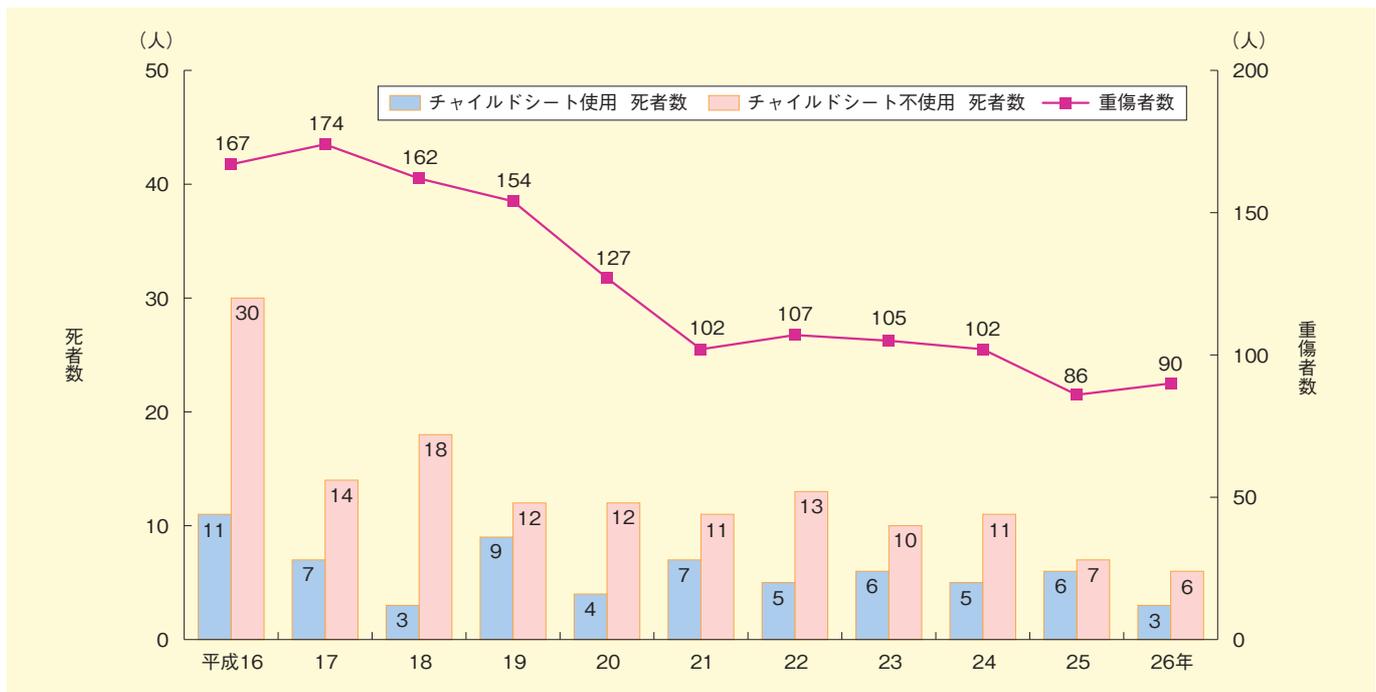


注 警察庁資料による。

●チャイルドシート着用の有無別死者数

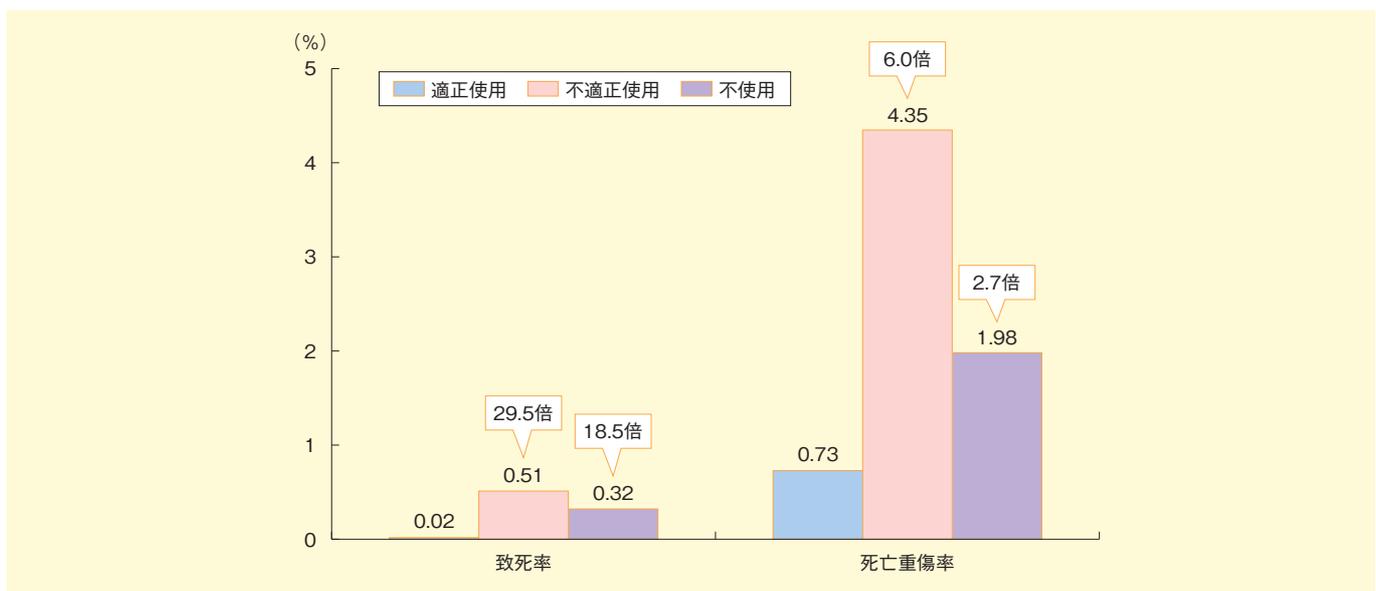
- ① 6歳未満幼児の自動車同乗中の死者数は、9人（うちチャイルドシート使用は3人）であり、重傷者数は90人であった。
- ② 6歳未満幼児のチャイルドシート使用有無別の死亡重傷率をみると、正しく使用した場合に比べ、不使用者は2.7倍、不適正使用者は6.0倍と高くなっている。

チャイルドシート使用有無別死者数及び重傷者数の推移



注 警察庁資料により作成。ただし、「使用不明」は省略している。

チャイルドシート使用有無別致死率及び死亡重傷率（平成26年）



注 警察庁資料により作成。